

006の方
cms

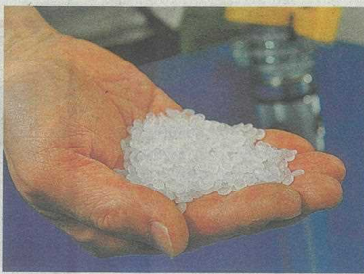
ストロー

シバセ工業(浅口市)

地方
経済
プラス

一直線に10センチ近く伸びた細長い管。カッターで均一の長さに切り落とされ、おなじみの製品が出来上がっていく。シバセ工業(浅口市鴨方町六条院中)が作るストローだ。1分間に約500本が生産される。

主原料の樹脂・ポリプロピレンに着色剤を混ぜ、200〜240度の高温で溶かす。金



主原料のポリプロピレン、着色剤を混ぜて粉末のまきを出せる。

型を通して管状に押し出し、すぐに冷却用の水槽へ。管が水圧でつぶれないよう、中に空気を送って形を保つ。

ストローの仕様は多種多様。樹脂を押し出す力や、送り込む空気の量を加減して、口径や厚さを変えられる。レーザーを使った自動検査装置でサイズを随時計測しながら、機械の設定を調整する。



原料を高温で溶かし、金型(右)から押し出す。左の水槽に通し、冷やしながらか、形を整えていく。



カッターで切断してストローの原型の出来上がり。蛇腹加工や医療・工業用の特殊加工を施し、出荷する。

プラスチック製が登場する以前、管状になった麦わらで飲み物を吸っていたのがストロー(英語で麦わらの意)の語源。備中地域では麦わら帽子などの材料に使われるひも「麦稗真田」の生産が盛んだったことから、浅口市寄島町で明治時代にストロー産業が興ったとされる。(平田亜沙美)

現在も国産品の多くは同市製とされるストロー。近年は安価な輸入品に押されているが、同社は医療機器の部材や部品の包装材料など、医療・工業用ストローも手掛け、需要の拡大に努めている。磯田拓也社長は「顧客の要望に応えられるよう、さらに技術力を磨きたい」と力を込める。(平田亜沙美)



水で冷やした後は空気中でさらに冷却し、乾燥させる